

第6章 西別湿原の維管束植物

高嶋八千代*・松下（宮野）和江**

* 道東野生植物調査会 ** 標津町野の植物の会

要旨

西別湿原において、2017年から2021年までの5年間に合計34回の現地調査をおこない、51科162種類（160種、1雑種、1推定雑種）の維管束植物（シダ植物及び種子植物）を確認した。そのうち、調査地で確認された環境省（2020）の絶滅危惧指定種はヤチカンバを含め9科13種である。希少種であるヤチカンバ（EN）、北方系種であるカンチスゲ（EN）など、保護上留意すべき種により特徴付けられる湿地である。

一方、湿地内ではアカエゾマツ、ミズナラ、ヤチダモ、カラコギカエデの稚樹とカラマツが確認され、エゾシカの食痕、踏み分け道が認められた。湿地内で確認した外来種6科18種のうち、8種はかつての湿地への牛侵入による影響と見られる牧草由来のものであった。また湿地の周辺部林床にはミヤコザサが繁茂している。

湿地とその周辺部における出現種調査の過程で認められたエゾシカの採食痕、木本類稚樹、外来種、湿地周辺部のササ類の動向、およびすでに報告されている雑種ヤチカンバへの対処は、貴重なヤチカンバ群落地の保護管理上検討すべき課題と考えられる。

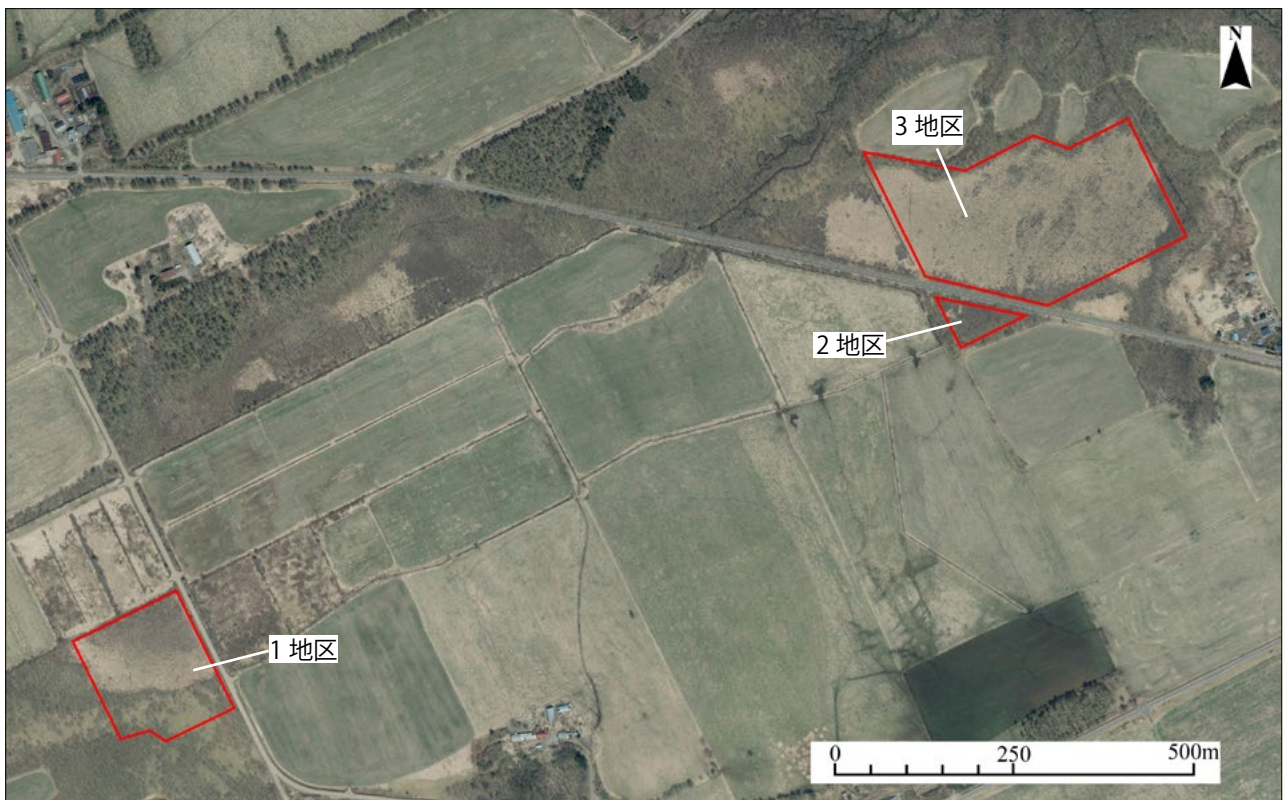


図6-1 調査範囲図 別海町所蔵航空写真（2020年撮影）から作成

1地区：新町有地（中西別 170-11） 2地区：道指定地南（別海 71-6） 3地区：道指定地北（別海 71-3・25・26）

6-1 はじめに

北海道東部、別海町の西別川およびその支川である測量川に挟まれた一帯に西別湿原がある（調査位置図：図 6-1）。ヤチカンバの保護対策事業を行うため、ヤチカンバの随伴種である植物（維管束植物）の出現状況を把握することを目的として、2017年6月27日から2021年8月31日まで、合計34回の現地調査を行った。調査では、対象地を1地区（新町有地）、2地区（道指定地南）、3地区（道指定地北）の3か所に区分し、各地での出現種の現地確認または腊葉標本を作製し、ヤチカンバ群落地の維管束植物目録を作成した（表 6-3）。作成した標本類は事業終了後公的機関への保存を検討している。また標本番号に※を付けた標本（重複標本）は東北大学植物園標本庫に収蔵された。

6-2 方法

西別湿原のうち、1地区（新町有地：中西別 170-11）、2地区（道指定地南：別海 71-6）、および3地区（道指定地北：別海 71-3・25・26）で5年間にわたって現地調査を行った。

現地調査は、2017年から2021年まで以下のとおり合計34回行った。2017年6月27日、7月10日、7月27日、8月10日、8月15日、8月28日（2017年度小計：6回）、2018年6月4日、6月19日、7月7日、7月21日、7月25日、8月13日、8月24日（2018年度小計：7回）、2019年5月30日、6月11日、6月27日、7月11日、7月25日、8月15日、8月24日（2019年度小計：7回）、2020年4月24日、5月15日、5月31日、6月13日、6月29日、7月15日、7月30日、8月16日、8月27日、9月17日、11月6日（2020年度小計：11回）、2021年8月6日、8月24日、8月31日（2021年度小計：3回）。

調査では、同定が可能な部分を含む植物体を採集し証拠標本を作製した。個体数が少なく現地での同定が可能な場合は、写真記録あるいは現地確認とした。高橋ら(1996)その他により記録された種は注意して確認することとした。

採集、記録は主に境界線内で行ったが、境界ラインが不明確な場所やライン付近にあるものは収録した。また、1地区の、2017年に発生した牛侵入による影響を調査するために設定された調査区には立ち入りはせず、枠外からの観察にとどめた。牛が侵入したことにより入り込んだ外来種等は佐藤(2019)から引用した。またヤチカンバとダケカンバの雑種は Shiotani et al. (2022) からの引用である。

6-3 結果と考察

6-3-1 出現種から見た現状

3地点それぞれの出現種は、1地区38科101種類（1確定雑種含む）、2地区31科65種類（1確定雑種含む）、3地区40科105種類（1確定雑種含む）、合計51科162種類（160種、1確定雑種、1推定雑種）である。

環境省指定絶滅危惧種(2020)は3地点での合計は9科13種である(表 6-1)。絶滅危惧IB類(EN)2種、絶滅危惧II類(VU)7種、および準絶滅危惧(NT)4種で、1地区10種、2地区3種、3地区12種である。ヤチカンバ(EN)のほかには、1地区のみにカラフトホシクサ(VU)、3地区のみにカンチスゲ(NT)が見られる。2地区はヤチカンバ以外のバッコヤナギなどの木本類が繁茂し、ヤチカンバと競合的に生育している状況である。

木本類のうち、湿地内に実生あるいは稚樹としてアカエゾマツ、ヤチダモ、ミズナラ、カラコギカエデが確認された。

外来種は6科18種確認された(表6-2)。なお、外来種とは本来分布しない場所に、ヒトにより意図的あるいは無意図的に持ち込まれ生育する種とし、帰化種とほぼ同義だが、ここでは原産地が国内外か、および定着しているか否かは問わないこととするため、外来種の用語を使用する。1地区4科13種、2地区1科2種(ただし、クサヨシについては暫定外来種)、3地区4科5種が記録された。3地区西側の境界線付近には、わだちがあり、周辺牧草地への重機の通路として利用された経緯があることによる外来種の侵入の可能性がある。1地区では、牛の侵入アクシデントに由来する、牧草からの逸出イネ科外来種であるオオアワガエリ(チモシー)、オオスズメノテッポウ(メドウフォックステイル)、カモガヤ(オーチャードグラス)、クサヨシ(リードカナリーグラス)、コヌカグサ(レッドトップ)、ナガハグサ(ケンタッキーブルーグラス)、ヒロハノウシノケグサ(メドウフェスク)など7種が認められた。なお、クサヨシは、北海道に自生種も存在するが、ここでは、侵入したものは、佐藤(2019)を引用し、牧草逸出由来外来種とする。牛侵入による外来種として、上記のほか、オオアワダチソウ、シロツメクサ、セイヨウタンポポ、コテングクワガタ、コシカギクがあり、ここでは外来種の扱いとはしないがハコベ、ミミナグサも認められた。

1地区の牛による攪乱の影響調査対象区には維管束植物調査では立ち入りはしないため、上記のうち、重複して記録されているのはコヌカグサ、シロツメクサ、コテングクワガタのみであるが、その他の外来種としてオオスズメノテッポウ、カラフトホソバハコベが記録された。2021年8月末現在では、これら外来種が湿地で増加する傾向は認められなかった。しかし周辺の道路際などでは、外来種であるオオハンゴンソウ(特定外来生物指定種)、セイヨウノコギリソウ、ヒメムカシヨモギや、道路の補修用張芝に使われるイネ科草本が確認されているため、注意する必要がある。また国内移植のカラマツが3地区の湿地内で確認された。

高橋ら(1996)との比較では、今回の調査ではオオバコ、オニナルコスゲ、オオマルバノホロシ、オトギリソウは調査地内では確認できなかったが、高橋らは、境界線の範囲を緩やかにとらえていたことから、境界線外の湿地周辺部を含めた可能性がある。また、上記の種が確認できなかったことについて、これらは高層湿原の生育種ではないことから、かつて3地区においてミズゴケの採取が行われたことによる影響ではないと考えられる。一方、1地区には見られるコケモモ、ヒメシャクナゲが2・3地区では確認されなかったが、これは高橋ら(1996)の調査でも確認できていない。しかし高橋ら(1997)の群落常在度表にコケモモの記録があることから、今回3地区で確認できなかったが、目録には引用して収録した。

表6-1 西別湿原で確認した絶滅危惧種

No.	種名	科名	環境省 2020 ランク	地域区分		
				1	2	3
1	トキソウ	ラン	NT			○
2	カラフトホシクサ	ホシクサ	VU	○		
3	イトナルコスゲ	カヤツリグサ	VU	○		○
4	カンチスゲ	カヤツリグサ	EN			○
5	タルミスゲ	カヤツリグサ	VU	○		○
6	ヒメワタスゲ	カヤツリグサ	NT	○		○
7	ホロムイクグ	カヤツリグサ	VU	○		○
8	クロバナハンショウヅル	キンボウゲ	VU	○		○
9	ヤチカンバ	カバノキ	EN	○	○	○
10	チシマウスバスマレ	スマレ	VU	○	○	○
11	タライカヤナギ	ヤナギ	NT	○	○	○
12	ヒメツルコケモモ	ツツジ	VU	○		○
13	ヒメタヌキモ	タヌキモ	NT			○
合計				7科 10種	3科 3種	8科 12種

※種名の順序は表6-3の目録順。カテゴリー(ランク)の省略については目録の説明参照。

表 6-2 西別湿原で確認された外来種

No.	和名	科名	1 地区	2 地区	3 地区	渡来・導入時期
1	カラマツ	マツ			○	明治期に本州から移植
2	オオアワガエリ	イネ	S			1978年に北海道の牧場で試植した記録がある。
3	オオスズメノテッポウ	イネ	○			明治期に牧草として導入。
4	カモガヤ	イネ	S			明治期より牧草として栽培される。
5	クサヨシ	イネ	S	(○)		明治期に飼料作物として導入された。
6	コヌカグサ	イネ	○・S	○		明治の初めに牧草として導入された。
7	ナガハグサ	イネ	S			明治初期に牧草として導入された。
8	ヒロハノウシノケグサ	イネ	S			明治期、牧草として導入された。オニウシノケグサとの交配品も野生化しているので注意が必要。
9	シロツメクサ	マメ	○・S			1886年には東京、札幌に帰化しているとの記録がある。
10	ムラサキツメクサ	マメ			○	明治維新ころ牧草として輸入され、1886年には東京、札幌に帰化しているとの記録がある。
11	メマツヨイグサ	アカバナ			○	1920年代に渡来か？
12	カラフトホソバハコベ	ナデシコ	○			1962年に北海道置戸町で採集されている。
13	コテングクワガタ	オオバコ	○・S			1947年に群馬県で確認された。
14	オオアワダチソウ	キク	S			明治中期、栽培品の逸出で野生化。
15	コシカギク	キク	S			明治時代にはサハリンでの分布が知られている。日本各地に広がったのは第二次大戦後か。
16	セイヨウタンポポ	キク	S			1904年札幌で確認。
17	フランスギク	キク			○	江戸時代末期に渡来し観賞用栽培品から逸出。
18	ヘラバヒメジョオン	キク			○	大正時代渡来。
	合 計		5 科 13 種	1 科 2 種	4 科 5 種	

※種の配列は目録順。由来は清水(2003)等から引用。なお、クサヨシは自生種だが、導入された牧草用品種が野外逸出している。2地区のクサヨシは外来、自生両方の可能性がある。Sは、佐藤(2019)より引用。○は松下、高嶋確認。

6-3-2 湿地フロラの特徴と指定地の保全管理上望まれること

西別湿原の出現種のうち、環境省指定希少種に注目してみた場合、釧路湿原や別寒辺牛湿原などとは異なり、調査地に境界線付近の明渠や内部に池塘はあるが、低層湿原や湖沼、塩湿地などは含まないことから、希少種は釧路や別寒辺牛湿原が全体の出現種のおよそ11%である(高橋2002)のに対し8%(13/162)である。また、各科に含まれる種数で比較すると、釧路湿原ではキク科、カヤツリグサ科、イネ科の順に多くの種数が含まれ、別寒辺牛湿原ではイネ科、カヤツリグサ科、キク科がそれぞれ他の科に比べて多く含まれるのに対し、当群落地ではカヤツリグサ科、キク科、イネ科の順となっている。他のフロラが、周辺部を含めていることを反映したフロラ構成になっているとすると、当湿地は周辺部を含まない調査であることを反映し、湿地植物のカヤツリグサ科が優占した種構成となっていると考えられる。釧路では確認されていないカンチスゲ、タルマイスゲなど北方系種も認められるが、当湿地は、特にヤチカンバが群生する湿地であることで、他と峻別される。

湿原植生の中でも特殊な湿地林のタイプとして、西別湿原に遺存するヤチカンバ群落が橋(1997、2002)により区分されている。また、ミズゴケブルトの植生として記載された(カラフト)イソツツジ—チャミズゴケ群集は、西別湿原のみならず分布域は広く、松山、浮島などの山地湿原や北オホーツク、サロベツ湿原でも見られ、基本構成要素はイソツツジ、ヤチツツジ、ヒメツルコケモモ、ガンコウラン、ヤチヤナギ、ワタスゲ、ヒメシャクナゲなどからなり、ヤチツツジは低地湿原にのみ出

現するとされた。北方系遺存種のひとつサカイツツジが生育する、根室市落石岬ではエゾゴゼンタチバナ、クロマメノキ、ヒメイツツジなど山地性湿原との共通種が随伴するとした。しかし、サカイツツジと同様に遺存種とされるヤチカンバの生育地である西別湿原ではコケモモ、ヒメツルコケモモ、ガンコウランなど共通する種も出現するが、エゾゴゼンタチバナ、クロマメノキや低地湿原に出現するとされるヤチツツジを欠く。近隣の標津湿原では、エゾゴゼンタチバナは確認できたがヤチツツジは確認できなかった。

なぜ、西別湿原ではヤチカンバが現在に至るまで生育し続けたか、道東の根室から厚岸に至る低地の湿原に見られるエゾゴゼンタチバナや北海道の低地湿原に広く認められるヤチツツジはみられないのか。当湿原をめぐる植物相にまつわる地史的な背景や環境条件の変遷などにおける他の湿原との異同のさらなる比較解明は、原生の面影を残す貴重な植生である（橘ほか 1997）西別湿原の特異性を維持、保全するため重要であろう。

ヤチカンバとその随伴種が今後継続して維持されるために注意すべき点として、外来種の侵入と木本類稚樹の扱い、エゾシカによる湿地の攪乱と採食、ヤチカンバ雑種の扱いがあげられよう。

牛の湿地への侵入というアクシデントがなかったとしても、周辺部には多数の牧草由来の種や特定外来生物のオオハンゴンソウを含む外来種が生育しており、常に外来種の侵入は危惧される。また、周辺部に密生するササ類の湿地内への侵入が懸念される。

湿地内に外部から種子や植物体を持ち込まないために、湿地に立ち入る際には、履物の洗浄などを行うなどできる限りの対策が求められる。また、ミズナラ、ヤチダモ、アカエゾマツ、カラコギカエデの稚樹とカラマツが湿地内に認められていることや、雑種のヤチカンバが認められたことから、これらの樹種の湿地内部での扱いは、検討課題である。

1 地区の池塘で、2017年にカラフトホシクサを確認した。しかし、翌2018年には池塘とその周辺部をヌタ場や休憩場としてエゾシカが利用している形跡が見つかった。池塘からは一時カラフトホシクサが消滅した。エゾシカの採食やふみ跡道の形成、ヌタ場などは定期的な観察対応が求められる。

ヤチカンバ雑種は Shiotani et al. (2022) によりダケカンバとの交雑種であることが確認された。しかしこの他にも未調査の雑種個体が発見される可能性がある。今後の湿地の保護管理のためにはすべての雑種個体を確認し、今後の扱いを検討する必要があると考えられる。

謝辞

現地調査には、標津町野の植物の会松下史郎、滝谷江美、滝谷健吾、三成まゆみの各氏、釧路市立博物館加藤ゆき恵学芸員、北方環境研究所深津恵太研究員の両氏に協力いただいた。また、西別湿原ヤチカンバ群落地保護対策検討委員である帯広畜産大学佐藤雅俊助教には、当湿地の生育種に関する情報提供をいただいた。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園大学院農学院中村剛助教には、ヤチカンバ雑種について情報提供をいただいた。元東北大学植物園米倉浩司助教にはホシクサ類などについての同定・助言をいただいた。イネ科外来種について、桜美林大学木場英久教授には特にクサヨシに関し情報提供をいただいた。門田裕一国立科学博物館名誉研究員からはアザミ類について情報提供をいただいた。北海道大学高橋英樹名誉教授には腊葉標本や学名に関し助言をいただいた。ここに記して感謝の意を表します。

文献

海老原淳 (2019a) 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス, 東京.

- 海老原淳 (2019b) 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研プラス, 東京.
- 藤井義晴・橋爪健 (2005) 牧草・飼料作物および雑草に含まれる有毒物質と家畜中毒. 牧草と園芸. 第53巻第6号.
- 北海道 (2010) 北海道の外来種リスト—北海道ブルーリスト 2010—. https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/4/8/4/9/6/0/_/blulist2010.pdf
- 五十嵐博 (2015) 北海道外来植物便覧. 北海道大学出版会, 札幌.
- 門田祐一 (2015) 北海道産植物ノート (4) 北海道のアザミ、その後. 北方山草. 32:31-36.
- 環境省 (2020) 環境省レッドリスト 2020 の公表について. <http://www.env.go.jp/press/107905.html>
- 木場英久・茨木靖・勝山照男 (2011) イネ科ハンドブック. 文一総合出版.
- 国安岳・高橋英樹 (2007) 北海道別海町西別湿原で見出されたヤチカンバの推定雑種個体 植物地理・分類研究. 第55巻第1号 2007年10月, 37-40.
- 森田弘彦 (1981) 北海道における帰化雑草の特徴と防除上の問題点. 雑草研究, vol.26, 200-214.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編) (2015) 改定新版日本の野生植物 1. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編) (2016a) 改定新版日本の野生植物 2. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編) (2016b) 改定新版日本の野生植物 3. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編) (2017a) 改定新版日本の野生植物 4. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田祐一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 (編) (2017b) 改定新版日本の野生植物 5. 平凡社, 東京.
- 長田武正 (1989) 日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京.
- 佐藤雅俊 (2019) ヤチカンバ生育地への家畜侵入による植生への影響調査と対応策の検討. (別海町教育委員会提出報告書 未発表)
- 清水建美 (編) (2003) 日本の帰化植物. 平凡社, 東京.
- Shiotani Y, Fukuda T, Marchuk EA, Petrunenko EA, Krestov PV, Bondarchuk SN, Nishikawa Y, Shimamura T, Fujimura Y, Nakamura K (2022) Parentage of hybrids in a disturbed population of *Betula ovalifolia* endangered in Japan and suggestions for conservation management. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*. In press.
- 橘ヒサ子・吉野裕幸・新沢一修・佐藤雅俊 (1997) 西別湿原の植物生態学的研究. 「自然保護助成基金 1994・1995 年度研究助成報告書」:183-194.
- 橘ヒサ子 (2002) 北海道の湿原植生とその保全「北海道の湿原」(辻井達一・橘ヒサ子編著): 285-301, (財) 前田一步園財団.
- 高橋英樹 (2015) 千島列島の植物. 北海道大学出版会, 札幌.
- 高橋英樹・高嶋八千代・滝田謙讓 (2002) 別寒辺牛湿原とその周辺の花と絶滅危惧植物の現状「北海道の湿原」(辻井達一・橘ヒサ子編著): 51-64, (財) 前田一步園財団.
- 高橋英樹・笈田一子・高橋美智子・与那覇モト子 (1996) 別海町のヤチカンバ群落地「北海道の絶滅危惧植物の現状: 道東を中心として」(北海道絶滅危惧植物調査研究グループ編): 65-73.
- 米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名—学名インデックス」(YList), <http://ylist.info> (2022年3月2日).
- 米倉浩司 (2013) 維管束植物分類表 (邑田 仁監修). 北隆館, 東京.
- 米倉浩司 (編) (2019) 新維管束植物分類表. 北隆館, 東京.

表 6-3 西別湿原維管束植物目録

西別湿原の1地区(中西別 170-11)、2地区(別海 71-6)、3地区(別海 71-3・25・26)とその境界線付近に出現する維管束植物について、2017年から2021年の調査結果を取りまとめた。種の配列は米倉(2019)を引用した。科内は学名のアルファベット順に配列した。学名は、海老原(2019a; 2019b)、大橋ら(2015; 2016a; 2016b; 2017a; 2017b)および米倉・梶田(2003-)を引用した。絶滅危惧種のランクは、環境省(2020)から引用した。目録収録のENは絶滅危惧I B類、VUは絶滅危惧II類、NTは準絶滅危惧種である。なお、北海道ランクは、現在改定途中のため、今回は省略する。

外来種については、清水(2003)、五十嵐(2015)他各種文献により判断した。外来と帰化の用語を併用している。引用文献が帰化を使用しているときはそのまま記述したが、帰化の用語は外国から渡来し定着という意味を含む恐れがあるため、カラマツのように、国内で本来の生育地ではない場所に移植された例もあるため、ヒトにより本来の生育地ではない場所に意図的あるいは無意図的にもたらされたという意味から、外来の用語を使用する。

地区区分は、1が1地区、2が2地区、3が3地区を表す。

表中の○は松下採集によるもので標本番号は三桁か四桁、Tは高嶋で標本は21番から始まる数字で表している。標本番号がないものは、現地を確認したものである。また以下に示す、「橋ら」は橋ら(1996)、Sは佐藤(2019)、ShはShiotani et al. (2022)からの引用である。S1は西別湿原ヤチカンバ群落地保護対策検討委員の佐藤雅俊氏の写真情報提供である。※は重複標本が東北大学植物に収蔵されている。また参考として、高橋ら(1996)の目録に記された出現種を☆印で付記した。注1)～注6)を欄外下部に注釈として加えた。

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1地区/2地区/3地区	高橋
			1	2	3		
シダ植物 PTERIDOPHYTA							
トクサ科 Equisetaceae							
1	スギナ	<i>Equisetum arvense</i> L.	S	.	.	././.	無
2	トクサ	<i>Equisetum hyemale</i> L.	.	T	.	././.	無
3	イヌスギナ	<i>Equisetum palustre</i> L.	○	○	○	1038,1039/1518, 519,1520 /1322, 1361, 1362, 1531	☆
ゼンマイ科 Osmundaceae							
4	ヤマドリゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> . (L.) C.Presl var. <i>fokiense</i> (Copel.)Tagawa	○	.	○	1227,1228,1229/. /1512,1513	☆
コバノイシカグマ科 Dennstaedtiaceae							
5	ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> (L.) Kuhn. subsp. <i>japonicum</i> (Nakai) Á. et D. Löve	○	.	.	1020/. /.	無
ヒメシダ科 Thelypteridaceae							
6	エゾメシダ	<i>Athyrium sinense</i> Rupr.	.	T	.	./21-1/. /.	☆
7	ニッコウシダ	<i>Thelypteris nipponica</i> (Franch.et Sav.) Ching	○	○	○	983/1591,1592,1593/1453	☆
8	ヒメシダ	<i>Thelypteris palustris</i> (Salisb.) Schott	T	T	○	21-3/. /1447,1448,1449/	☆
コウヤワラビ科 Onocleaceae							
9	クサソテツ	<i>Onoclea struthiopteris</i> (L.)Hoffm.	.	○	.	./1589,1590 /.	無
種子植物 SPERMATOPHYTA							
裸子植物・球果類 GYMNOSPERMAE・Coniferae							

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1 地区 / 2 地区 / 3 地区	高橋
			1	2	3		
マツ科 Pinaceae							
10	アカエゾマツ (写真 6-12)	<i>Picea glehnii</i> (F. Schmidt) Mast.	T	•	•	21-4/•/•	無
11	カラマツ (国内移入) (写真 6-16)	<i>Larix kaempferi</i> (Lamb.) Carrière	•	•	○	•/•/1395,1396,1397	無
被子植物 ANGIOSPERMAE							
単子葉植物 MONOCOTYLEDONEAE							
ホロムイソウ科 Scheuchzeriaceae							
12	ホロムイソウ	<i>Scheuchzeria palustris</i> L.	•	•	○	•/•/1419	無
シュロソウ科 Melanthiaceae							
13	バイケイソウ	<i>Veratrum oxysepalum</i> Turcz. var. <i>oxysepalum</i>	•	○	•	•/1523,1524,1525/•	☆
ラン科 Orchidaceae							
14	トキシウ (環境省 NT) (写真 6-1)	<i>Pogonia japonica</i> Rchb. f.	•	•	○	•/•/1316	☆
15	ホソバナノキソチドリ	<i>Platanthera tipuloides</i> (L.f.) Lindl.	○	•	○	877/•/1323	☆
アヤメ科 Iridaceae							
16	ヒオウギアヤメ	<i>Iris setosa</i> Pall. ex Link	•	○	○	•/1549/1317,1318	☆
ワスレグサ科 Asphodelaceae							
17	ゼンテイカ (エゾカンゾウ)	<i>Hemerocallis middendorffii</i> Trautv. et C.A.Mey. var. <i>esculenta</i> (Koidz.) Ohwi	○	•	○	855/•/1319,1320	☆
ヒガンバナ科 Amaryllidaceae							
18	ギョウジャニンニク	<i>Allium victorialis</i> L. subsp. <i>platyphyllum</i> Hultén	○	•	•	887/•/•	無
クサスギカズラ科 Asparagaceae							
19	スズラン	<i>Convallaria majalis</i> L. var. <i>manshurica</i> Kom.	○	•	•	1188,1189/•/•	無
20	コバギボウシ (タチギボウシ)	<i>Hosta sieboldii</i> (Paxton) J.W.Ingram	○	○	○	940/1564/1379,1380,1381	☆
21	オオアマドコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> (Mill.) Druce var. <i>maximowiczii</i> (F.Schmidt.) Koidz.	•	○	•	•/1507,1508/•	無
ホシクサ科 Eriocaulaceae							
22	カラフトホシクサ (環境省 VU) (写真 6-2)	<i>Eriocaulon sachalinense</i> Miyabe et Nakai	○ ※	•	•	982,1005,1005-2 ※/•/•	無
イグサ科 Juncaceae							
23	イグサ	<i>Juncus decipiens</i> (Buchenau) Nakai	○	•	•	848-2 ※,848,1184,1185,1186,1187/•/•	無

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1 地区 / 2 地区 / 3 地区	高橋
			1	2	3		
24	ハリコウガイゼキシ ヨウ	<i>Juncus wallichianus</i> Laharpe	○	・	T	1230,1231/・/21-5	無
25	スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i> (Miq. ex Franch. et Sav.) Kom	・	・	○	・/・/1509	無
カヤツリグサ科 Cyperaceae							
26	タルマイスゲ (環境省 VU) (写真 6-5)	<i>Carex buxbaumii</i> Wahlenb.	○	・	○	854/・/1300/	☆
27	ハリガネスゲ	<i>Carex capillacea</i> Boott var. <i>capillacea</i>	・	・	○	・/・/1301	無
28	カブスゲ	<i>Carex cespitosa</i> L.	・	○	T	・/1487,1488/・	無
29	キタノカワズスゲ	<i>Carex echinata</i> Murray	○	・	○	844,847/・/1324,1325,1326,1529,1530	☆
30	カンチスゲ (環境省 EN) (写真 6-4)	<i>Carex gynocrates</i> Wormsk.	・	・	○	・/・/1294,1305	☆
31	ヒカゲスゲ	<i>Carex lanceolata</i> Boott	・	○	・	・/1497,1498/・	無
32	ムジナスゲ	<i>Carex lasiocarpa</i> Ehrhart var. <i>occultans</i> (Franch.) Kük.	○	・	○	875,876/・/1324,1328,1329	無
33	イトナルコスゲ (環境省 VU) (写真 6-3)	<i>Carex laxa</i> Wahlenb.	○	・	○	857/・/1303,1304	☆
34	ヤチスゲ	<i>Carex limosa</i> L.	・	・	○	・/・/1302	☆
35	ゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i> Miq. var. <i>maximowiczii</i>	・	・	○	・/・/1314,1315	☆
36	トマリスゲ (ホロム イスゲ)	<i>Carex middendorffii</i> F. Schmidt	○	・	○	779/・/1333,1334,1335	☆
37	ウスイロスゲ	<i>Carex pallida</i> C.A.Mey.	・	○	・	・/1506/・	無
38	オオカサスゲ	<i>Carex rhynchophysa</i> C.A. Mey.	・	・	T	・/・/・	無
39	カミカワスゲ	<i>Carex sabynensis</i> Less.var. <i>sabynensis</i>	・	・	○	・/・/1295,1296,1297,1308,1309,1310	☆
40	アカンカサスゲ	<i>Carex sordida</i> Heurck et Müll. Arg.	・	○	・	・/1532,1533,1534/・	☆
41	ホロムイクゲ (環境省 VU) (写真 6-7)	<i>Carex tsuishikarensis</i> Koidz.et Ohwi	○	・	○	780,843/・/1321	☆
42	オオヌマハリイ (ヌマ ハリイ)	<i>Eleocharis mamillata</i> H. Lindb. var. <i>cyclocarpa</i> Kitag.	・	・	T	・/・/21-6	☆
43	シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i> Boeck.	・	・	○	・/・/1443,1444,1445	無
44	ワタスゲ	<i>Eriophorum vaginatum</i> L.	○	・	○	781,782/・/1273,1275	☆
45	サギスゲ	<i>Eriophorum gracile</i> W.D.Koch ex Roth	・	・	○	・/・/1330,1331,1332	☆
46	ホタルイ	<i>Schoenoplectiella hotarui</i> (Ohwi) J.D.Jung et H. K. Choi	・	・	T	・/・/21-7	無
47	アブラガヤ	<i>Scirpus wichurae</i> Böck.	○	・	T	986,987/・/・/	無
48	ヒメワタスゲ (環境省 NT) (写真 6-6)	<i>Trichophorum alpinum</i> (L.) Pers.	○	・	○	856/・/1276,1277,1456	☆

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1 地区 / 2 地区 / 3 地区	高橋
			1	2	3		
49	ミカツキグサ	<i>Rhynchospora alba</i> (L.) Vahl	・	・	○	・ / ・ / 1359,1363	無
イネ科 Poaceae							
50	ヤマヌカボ	<i>Agrostis clavata</i> Trin. var. <i>clavata</i>	○	・	・	880 / ・ / ・	☆
51	オオスズメノテッポウ (外来) (写真 6-18)	<i>Alopecurus pratensis</i> L.	○	・	・	1140 / ・ / ・ /	無
52	イワノガリヤス	<i>Calamagrostis purpurea</i> (Trin.) Trin. Subsp. <i>langsдорffii</i> (Link) Tzvelev	○	T	○	1032,1033 / ・ / 1373,1374,1375	☆
53	チシマガリヤス	<i>Calamagrostis stricta</i> (Timm.) Koeler subsp. <i>inexpansa</i> (A.Gray) C. W. Greene	○	・	○	881,938,939 / ・ / 1356,1357,1358	☆
54	カモガヤ (外来)	<i>Dactylis glomerata</i> L.	S	・	・	・ / ・ / ・	無
55	コヌカグサ (外来)	<i>Agrostis gigantea</i> Roth	○ S	○	・	1154,1155/1559 / ・	無
56	ヌマガヤ	<i>Moliniopsis japonica</i> (Hack.) Hayata	○	○	○	1036,1037/1584,1585,1586/ 1415,1416,1417	☆
57	クサヨシ (在来・外来) 注 1)	<i>Phalaris arundinacea</i> L.	S	○	・	・ / 1541,1542 / ・	無
58	オオアワガエリ (外来)	<i>Phleum pratense</i> L.	S	○	・	・ / ・ / ・	無
59	ヨシ	<i>Phragmites australis</i> (Cav.) Trin. ex Steud.	○	○	○	1015,1016/1594,1595 / 1418,1420	☆
60	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i> L.	○	・	・	1139 / ・ / ・	無
61	ナガハグサ (外来)	<i>Poa pratensis</i> L.	S	・	・	・ / ・ / ・	無
62	ミヤコザサ	<i>Sasa nipponica</i> (Makino) Makino et Shibata	○	○	○	1210,1211/1556,1557,1558/ 1565,1566,1567	☆
63	ヒロハノウシノケグサ (外来)	<i>Schedonorus pratensis</i> (Huds.) P. Beauv.	S	・	・	・ / ・ / ・	無
真正双子葉植物 EUDICOTS							
キンポウゲ科 Ranunculaceae							
64	カラフトブシ	<i>Aconitum sachalinense</i> F.Schmidt subsp. <i>sachalinense</i>	・	T	T	・ / 21-9/21-8	無
65	ヒメイチゲ	<i>Anemone debilis</i> Fisch.ex Turcz.	○	○	○	785/1483/1284,1287,1472	☆
66	サラシナショウマ	<i>Cimicifuga simplex</i> (DC.) Wormsk. ex Turcz.	T	・	・	21-10 / ・ / ・ /	無
67	クロバナハンショウヅル (環境省 VU) (写真 6-8)	<i>Clematis fusca</i> Turcz.	T	・	○	・ / ・ / 1298,1299,1306	☆
68	アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> L. var. <i>hypoleucum</i> (Siebold et Zucc.) Miq.	○	・	○	947,948 / ・ / 1376,1377,1378	☆
69	エゾカラマツ	<i>Thalictrum sachalinense</i> Lecoy.	・	○	・	・ / 1526,1527,1528 / ・	無
マメ科 Fabaceae							
70	ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i> Turcz. var. <i>bicolor</i>	・	T	○	・ / ・ / 1406,1407,1408	☆

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1 地区 / 2 地区 / 3 地区	高橋
			1	2	3		
71	ムラサキツメクサ (アカツメクサ) (外来)	<i>Trifolium pratense</i> L.	・	・	○	・ / ・ / 1344	無
72	シロツメクサ (外来)	<i>Trifolium repens</i> L.	○ S	・	・	1179,1180 / ・ / ・	無
73	クサフジ	<i>Vicia cracca</i> L.	・	○	○	・ / 1571,1572 / 1367,1368,1369	無
74	ナンテンハギ (フタバハギ)	<i>Vicia unijuga</i> A. Braun	○	・	・	884 / ・ / ・	☆
バラ科 Rosaceae							
75	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb. var. <i>viscidula</i> (Bunge) Kom.	・	T	○	・ / ・ / 1403,1404,1405	無
76	ヤマブキショウマ	<i>Aruncus dioicus</i> (Walter) Fernald var. <i>kamtschaticus</i> (Maxim.) H.Hara	○	T	○	889,890 / ・ / 1353,1354,1355	☆
77	エゾノウワミズザクラ	<i>Padus avium</i> Mill. var. <i>avium</i>	T	・	・	21-11 / ・ / ・	無
78	ミツバツチグリ	<i>Potentilla freyniana</i> Bornm.	・	○	○	・ / 1496 / 1267,1268	☆
79	カラフトイバラ	<i>Rosa amblyotis</i> C.A. Mey.	○	・	T	882 / ・ / 21-12	無
80	エゾキイチゴ (エゾイチゴ)	<i>Rubus idaeus</i> L.	○	○	・	850 / 1516,1517 / ・	☆
81	ナガボノワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> Fisch. ex Link	○	○	○	949 / 1573,1574,1575 / 1389,1390,1391	☆
82	ホザキシモツケ	<i>Spiraea salicifolia</i> L.	○	○	○	883 / 1538,1539,1540 / 1348,1349,1350	☆
ニレ科 Ulmaceae							
83	ハルニレ	<i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehder) Nakai	○	・	・	1030,1031 / ・ / ・	無
イラクサ科 Urticaceae							
84	ホソバイラクサ	<i>Urtica angustifolia</i> Fisch. ex Hornem. var. <i>angustifolia</i>	・	T	・	・ / 21-13 / ・	無
ブナ科 Fagaceae							
85	ミズナラ (写真 6-14)	<i>Quercus crispula</i> Blume var. <i>crispula</i>	○	T	T	1021,1109,1110,1111 / ・ / ・	無
86	ミズナラ推定雑種 注 2)	<i>Quercus</i> sp.	・	○	・	・ / 1546,1547,1548 / ・	無
ヤマモモ科 Myricaceae							
87	ヤチヤナギ	<i>Myrica gale</i> L. var. <i>tomentosa</i> C. DC.	○	○	○	788,789 / 1489,1490 / 1270,1271,1272	☆
カバノキ科 Betulaceae							
88	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i> (Thunb.) Steud.	○	○	○	935,936,1014 / 1493,1494,1495 / 1455	☆
89	シラカンバ	<i>Betula platyphylla</i> Sukaczew var. <i>japonica</i> (Miq.) H.Hara	○	○	○	1026,1027 / 1480,1481,1482 / 1484,1485,1486	☆

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号			高橋
			1	2	3	1 地区 / 2 地区 / 3 地区			
90	雑種 (ダケカンバ×ヤチカンバ) 注3)	<i>Betula ermanii</i> Cham. × <i>Betula ovalifolia</i> Rupr.	Sh	・	Sh	・ / ・ / ・		○	
91	ヤチカンバ (環境省 EN)	<i>Betula ovalifolia</i> Rupr.	○	○	○	791 ※ , 793 ※ / 1477, 1478, 1479 / 1279, 1280, 1281, 1473, 1474, 1475		☆	
ニシキギ科 Celastraceae									
92	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb. var. <i>orbiculatus</i>	・	T	・	・ / 21-14 / ・		無	
93	マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i> Blume	○	○	・	891, 892 / 1521, 1522 / ・		無	
94	ウメバチソウ	<i>Parnassia palustris</i> L. var. <i>palustris</i>	・	・	○	・ / ・ / 1450, 1451		☆	
スミレ科 Violaceae									
95	チシマウスバスミレ (環境省 VU) (写真 6-9)	<i>Viola hultenii</i> W.Becker	○	○	○	・ / 1476 / 1291, 1292		☆	
96	シロスミレ	<i>Viola patrinii</i> DC.	・	・	○	・ / ・ / 1510		☆	
97	ツボスミレ	<i>Viola verecunda</i> A.Gray	・	○	・	・ / 1550 / ・		☆	
ヤナギ科 Salicaceae									
98	バッコヤナギ (エゾノバッコヤナギ)	<i>Salix caprea</i> L.	・	T	・	・ / 21-15 / ・		☆	
99	イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i> Thunb.	・	○	・	・ / 1465, 1466, 1467 / ・		☆	
100	タライカヤナギ (環境省 NT) (写真 6-10)	<i>Salix taraikensis</i> Kimura	○	T	○	1113, 1114 / ・ / 1462, 1463, 1464		無	
101	オノエヤナギ (ナガバヤナギ)	<i>Salix udensis</i> Trautv. et C. A. Mey	T	T	T	・ / 21-2 / ・		○	
フウロソウ科 Geraniaceae									
102	エゾフウロ	<i>Geranium yesoense</i> Franch. et Sav. var. <i>yesoense</i>	・	・	○	・ / ・ / 1351, 1352		無	
アカバナ科 Onagraceae									
103	メマツヨイグサ (外来)	<i>Oenothera biennis</i> L.	・	・	○	・ / ・ / 1370, 1371		☆	
ムクロジ科 Sapindaceae									
104	カラコギカエデ (写真 6-15)	<i>Acer tataricum</i> L. subsp. <i>aidzuense</i> (Franch.) P.C. de Jong	○	○	T	942, 943 / 1535, 1536, 1537 / 21-16		無	
ミカン科 Rutaceae									
105	キハダ	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr. var. <i>amurense</i>	○	・	○	885 / ・ / 1446		無	
タデ科 Polygonaceae									
106	イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i> (Bruijn) Kitag.	○	・	・	1080 / ・ / ・		無	
107	イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i> (L.) H. Gross	・	T	・	・ / 21-18 / ・		無	

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1 地区 / 2 地区 / 3 地区	高橋
			1	2	3		
108	アキノウナギツカミ (ウナギツカミ)	<i>Persicaria sagittata</i> (L.) H. Gross var. <i>sibirica</i> (Meisn.) Miyabe	・	T	・	・ / 21-17 / ・	無
109	ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i> (Siebold et Zucc.) H. Gross var. <i>thunbergii</i>	○	・	・	1081,1082 / ・ / ・	無
モウセンゴケ科 Droseraceae							
110	モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i> L.	○	・	○	874 / ・ / 1360	☆
ナデシコ科 Caryophyllaceae							
111	オオヤマフスマ	<i>Arenaria lateriflora</i> L.	・	○	○	・ / 1499 / 1269	無
112	ミミナグサ	<i>Cerastium fontanum</i> Baumg. subsp. <i>vulgare</i> (Hartm.) Greuter et Burdet var. <i>angustifolium</i> (M. Mizush.) H. Hara	S	・	・	・ / ・ / ・	
113	カラフトホソバハコ ベ (外来) (写真 6-19)	<i>Stellaria graminea</i> L.	○	・	・	1181 / ・ / ・	☆
114	ハコベ (コハコベ)	<i>Stellaria media</i> (L.) Vill.	S	・	・	・ / ・ / ・	無
115	ノミノフスマ	<i>Stellaria uliginosa</i> Murray var. <i>undulata</i> (Thunb.) Frenzl	○	・	・	1182 / ・ / ・	無
アジサイ科 Hydrangeraceae							
116	ノリウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i> Siebold	○	○	○	937 / 1560, 1561, 1562 / 1383, 1384, 1385	☆
ツリフネソウ科 Balsaminaceae							
117	キツリフネ	<i>Impatiens noli-tangere</i> L.	・	○	・	・ / 1578, 1579 / ・	☆
サクラソウ科 Primulaceae							
118	ツマトリソウ (コツ マトリソウ)	<i>Lysimachia europaea</i> (L.) U. Manns et Anderb.	○	・	○	786 / ・ / 1278, 1307, 1511	☆
119	クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> L. subsp. <i>davurica</i> (Ledeb.) Tatew.	○	・	○	984, 985 / ・ / 1409, 1410, 1411	○
ツツジ科 Ericaceae							
120	ヒメシャクナゲ	<i>Andromeda polifolia</i> L.	○	・	・	787 / ・ / ・	無
121	ガンコウラン	<i>Empetrum nigrum</i> L. var. <i>japonicum</i> K. Koch	○	・	○	790 / ・ / 1288, 1289, 1290, 1471	☆
122	イソツツジ (カラフ トイソツツジ)	<i>Rhododendron diversipilosum</i> (Nakai) Harmaja	○	○	○	783 / 1491, 1492 / 1284, 1285, 1286	☆
123	ヒメツルコケモモ (環境省 VU) (写真 6-11)	<i>Vaccinium microcarpum</i> (Turcz. ex Rupr.) Schmalh.	○	・	○	784 / ・ / 1282	☆
124	ツルコケモモ	<i>Vaccinium oxycoccus</i> L.	○	・	○	845 / ・ / 1340, 1341, 1342	☆
125	コケモモ 注 4)	<i>Vaccinium vitis-idaea</i> L.	○	・	橘ら	846 / ・ / ・	無
アカネ科 Rubiaceae							
126	アカネムグラ	<i>Rubia jesoensis</i> (Miq.) Miyabe et T. Miyake	・	・	○	・ / ・ / 1364, 1365, 1366	☆

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1 地区 / 2 地区 / 3 地区	高橋
			1	2	3		
リンドウ科 Gentianaceae							
127	エゾリンドウ	<i>Gentiana triflora</i> pall. var. <i>japonica</i> (Kusn.) H.Hara	.	.	○	・/・/1452	☆
128	フデリンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawc.	.	.	○	・/・/1470	無
ヒルガオ科 Convolvulaceae							
129	ヒルガオ	<i>Calystegia pubescens</i> Lindl.	.	T	○	・/・/1598,1599	無
モクセイ科 Oleaceae							
130	ヤチダモ (写真 6-13)	<i>Fraxinus mandshurica</i> Rupr.	○	T	T	788,789/・/・	☆
131	ハシドイ	<i>Syringa reticulata</i> (Blume) H.Hara var. <i>reticulata</i>	○	.	.	1028/・/・	無
オオバコ科 Plantaginaceae							
132	コテングクワガタ	<i>Veronica serpyllifolia</i> L. subsp. <i>serpyllifolia</i>	○ S	.	.	1141/・/・	無
タヌキモ科 Lentibulariaceae							
133	コタヌキモ	<i>Utricularia intermedia</i> Heyne	.	.	○	・/・/1336,1337,1338,1339/	無
134	ヒメタヌキモ (環境省 NT)	<i>Utricularia minor</i> L.	.	.	T	・/・/21-19	無
シソ科 Lamiaceae							
135	エゾシロネ	<i>Lycopus uniflorus</i> Michx.	○	○	T	1012/1581,1582,1583/・	☆
136	エゾイヌゴマ	<i>Stachys aspera</i> Michx. var. <i>baicalensis</i> (Fisch. ex Benth.) Maxim.	.	.	T	・/・/21-20	無
キキョウ科 Campanulaceae							
137	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> (Thunb.) A.DC. var. <i>japonica</i> (Regel) H.Hara	.	○	○	・/1576,1577/1386,1387,1388	☆
138	サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i> Lamb.	○	○	○	979,980,981/1588/1412,1413,1414	○
キク科 Asteraceae							
139	オトコヨモギ	<i>Artemisia japonica</i> Thunb.	.	.	○	・/・/1440,1441,1442	☆
140	オオヨモギ	<i>Artemisia montana</i> (Nakai) Pamp.	○	○	○	1013/1596,1597/437,1438,1439	☆
141	エゾゴマナ (ゴマナ)	<i>Aster glehnii</i> F. Schmidt.	.	.	T	・/・/21-21	無
142	エゾノサワアザミ / エゾノキレハアザミ (新称) 注 5) (写真 6-20)	<i>Cirsium pectinellum</i> A.Gray/ <i>Cirsium yezopinnatifidum</i> , nom. prov. (準備名) ※	○	○	○	878 ※ ,945/1563/1382	☆
143	ヘラバヒメジョオン (外来)	<i>Erigeron strigosus</i> Muhl. ex Willd.	.	.	○	・/・/1345,1346,1347	☆
144	サワヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i> DC. var. <i>lindleyanum</i>	○	.	T	1010,1011/・/・	☆

表 6-3 (つづき)

No.	科 和名	学名	地区区分			標本番号 1 地区 / 2 地区 / 3 地区	高橋
			1	2	3		
145	ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i> T.Kawahara et Yahara	○	T	○	977,978,994/・/1569,1570	☆
146	ミツバヒヨドリ	<i>Eupatorium tripartitum</i> (Makino) Murata et H.koyama	・	・	○	・/・/1568	無
147	シロバナニガナ 注6)	<i>Ixeridium dentatum</i> (Thunb.) Tzvelev subsp. <i>nipponicum</i> (Nakai) Pak et Kawano var. <i>albiflorum</i> (Makino) Tzvelev f. <i>leucanthum</i> (H.Hara) H.Nakai et H.Ohashi	・	・	S1	・/・/・	☆
148	フランスギク (外来) (写真 6-17)	<i>Leucanthemum vulgare</i> Lam.	・	・	○	・/・/1311,1312,1313	無
149	コシカギク (外来)	<i>Matricaria matricarioides</i> (Less.) Ced. Porter ex Britton	S	・	・	・/・/・	無
150	ヨブスマソウ	<i>Parasenecio robustus</i> (Tolm.) Kadota	○	・	・	946/・/・	無
151	アキタブキ	<i>Petasites japonicus</i> (Siebold et Zucc.) Maxim.subsp. <i>giganteus</i> (G.Nicholson) Kitam.	・	・	○	・/・/1468,1469/	無
152	コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Krylov.	・	・	○	・/・/1372	☆
153	ハンゴンソウ	<i>Senecio cannabifolius</i> Less.	○	○	○	1017/1580/1421	無
154	オオアワダチソウ (外来)	<i>Solidago gigantea</i> Aiton subsp. <i>serotina</i> (Kuntze) McNeill	S	・	・	・/・/・	無
155	ミヤマアキノキリン ソウ (コガネギク)	<i>Solidago virgaurea</i> L. subsp. <i>leiocarpa</i> (Benth.)Hultén	○	○	○	933,934/1587/1392,1393,1394	☆
156	セイヨウタンポポ (外来)	<i>Taraxacum officinale</i> Weber ex F. H. Wigg.	S	・	・	・/・/・	無
ガマズミ (レンブクソウ) 科 Viburnaceae(Adoxaceae)							
157	エゾニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> L. subsp. <i>kamtschatica</i> (E.L.Wolf) Hultén	・	○	T	・/1500,1501,1502/・	☆
スイカズラ科 Caprifoliaceae							
158	クロミノウゲイスク グラ	<i>Lonicera caerulea</i> L.subsp. <i>edulis</i> (Regel) Hultén var. <i>emphyllcalyx</i> (Maxim.) Nakai	○	○	○	849/1543,1544,1545/1514,1515	☆
159	ベニバナヒヨウタン ボク	<i>Lonicera maximowiczii</i> (Rupr.)Regel var. <i>sachalinensis</i> F.Schmidt	T	・	・	21-23/・/・/	無
160	カンボク	<i>Viburnum opulus</i> L. var. <i>sargentii</i> (Koehne) Takeda	○	・	T	・/・/21-22	無
セリ科 Apiaceae							
161	エゾノヨロイグサ	<i>Angelica sachalinensis</i> Maxim. var. <i>sachalinensis</i>	○	・	・	944/・/・	無
162	オオカサモチ	<i>Pleurospermum uralense</i> Hoffm.	○	・	・	886/・/・	無

- 注1) クサヨシは、自生種がある一方、明治期に飼料用として導入されたものが野外逸出した。また、近年では、クサヨシに含まれるアルカロイドを低減した品種が開発普及されている（藤井ら 2005; 森田 1981）。北海道ブルーリスト（2010）では、牧草用として導入されたクサヨシが野外逸出しているとして、カテゴリー A3（本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている外来種）で、注意喚起している。当湿地の1地区で確認されたものは、牛が持ち込んだことが明らかたため、外来種として扱った。「牧草由来のクサヨシはより乾いた草地に帰化している」（木場ら 2011）との記述はあるが、2地区のものは、どちらにあたるかの判定はここでは保留し、暫定外来種とする。
- 注2) ミズナラはカシワとの雑種と推定されるものがある。
- 注3) ヤチカンバとダケカンバの雑種が、Shiotani et al. (2022) により、1地区の境界線付近および3地区で確認された。
- 注4) 3地区では、コケモモが確認できなかったが、1地区では確認されており、間違いにくい種であることから、橘ら (1997) の植生表に記録されているので、引用する。
- 注5) エゾノサワアザミはエゾノキレハアザミ（新称）*Cirsium yezopinnatifidum*, nom. prov.（準備名）と組み替えされる。追って正式な発表がなされる予定。門田 (2015) 及び私信より。
- 注6) 白い花のニガナについて、高嶋、松下は現地で確認できなかったが、佐藤雅俊委員の写真情報を引用する形で目録にいれた。和名は高橋ら (1996) を引用しシロバナニガナとした。写真より舌状花が白色であることは確認できたが、舌状花の小花数、匍匐枝の有無、葉の形状等について細部を確定できないため、オゼニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev subsp. *ozense* (Sugim.) Yonek. の可能性もあることを付記する。



写真 6-1 トキシウ

ラン科 環境省：NT

3 地区の西側中間湿原に出る草丈 20cm 前後の多年草。6～7月開花。



写真 6-2 カラフトホシクサ

ホシクサ科 環境省：VU

1 地区の池塘に出る草丈 10cm ほどの一年草。8～9月に開花。



写真 6-3 イトナルコスゲ

カヤツリグサ科 環境省：VU

1・3 地区の中間から高層湿原に散生する草丈 20-40cm の多年草。



写真 6-4 カンチスゲ

カヤツリグサ科 環境省：EN

雌雄異株。1 地区のミズゴケ湿原に稀産する草丈 10-20cm の多年草。



写真 6-5 タルマイスゲ

カヤツリグサ科 環境省：VU

1・3 地区の湿原周辺部から中間湿原で、縦走する根茎からまばらに出る多年草。



写真 6-6 ヒメワタスゲ

カヤツリグサ科 環境省：NT

6 個の花被片が果時に伸びて白い綿毛状になる。1・3 地区に出る、草丈 10-30cm の多年草。



写真 6-7 ホロムイクグ
 カヤツリグサ科 環境省：VU
 1・3 地区の中間から高層湿原に出る、草丈 20—50cm の多年草。



写真 6-8 クロバナハンショウヅル
 キンポウゲ科 環境省：VU
 1・3 地区の湿原及びその周辺部に出るツル性の多年草。7—8 月開花。

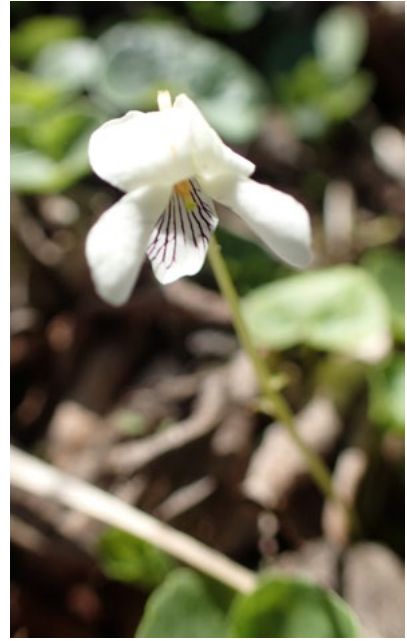


写真 6-9 チシマウスバスマスミレ
 スミレ科 環境省：VU
 1・2・3 地区の湿原と周辺部に出る多年草。5—6 月開花。



写真 6-10 タライカヤナギ
 ヤナギ科 環境省：NT
 1・2・3 地区の湿原周辺部に見られる雌雄異株の落葉広葉樹。5—6 月開花。



写真 6-11 ヒメツルコケモモ
 ツツジ科 環境省：VU
 1・3 地区のミズゴケブルト上に出る常緑小低木。ツルコケモモに似るが花柄は無毛。7 月開花。



写真 6-12 アカエゾマツ稚樹
 稚樹。1 地区のミズゴケブルト上で確認。近隣に母樹は見られない。



写真 6-13 ヤチダモ稚樹
 稚樹は 2・3 地区の湿原周辺部で確認。近隣に成木多数あり。



写真 6-14 ミズナラ稚樹

稚樹は1・2・3地区の湿原内にやや目立つ。近隣に成木あり。



写真 6-15 カラコギカエデ稚樹

稚樹。3地区のミズゴケブルト上で確認。近隣に成木あり。



写真 6-16 カラムツ（国内外来）

3地区の中間湿原にあり。樹高約1m。近隣には植栽の成木がある。



写真 6-17 フランスギク（外来）

ヨーロッパ原産。周辺の攪乱地では普通。調査地内では稀。



写真 6-18

オオスズメノテッポウ（外来）
ヨーロッパ原産。近年周辺部の牧草地を中心に増加中。調査地内では牛による攪乱地のみで見られた。



写真 6-19

カラフトホソバハコベ（外来）
ヨーロッパ原産。周辺部の攪乱地では普通。調査地内では牛による攪乱地のみで見られた。



写真 6-20

（仮称）エゾノキレハアザミ
別海では普通。1・2・3地区の湿原周辺部。別種を整理、組み換え予定。7-8月開花。